

小林央子 特任館長 インタビュー

特任館長に就任して以来、テレビやラジオなどのメディアから取材を受けたり出演したり、主に美術館の広報担当を務めています。また、首都圏で行われる講演会の講師やシンポジウムのパネリストを務めながら国内外に美術館を紹介しています。最近では話題の十和田バラ焼きや農産物、鳶沼などの自然もPRしているので、特任館長というよりも十和田市の伝道者（エバンジェリスト）かなと思っています。

現代アートの良いところは作家が生きていることです。有名なアートは遺作がほとんどで、作者の作品への想いが伝わりにくいところがあります。これまで知り合った作家に共通していることは、皆さんが個性的で前向きなことだと思います。作品には作家のメッセージが込められています。アートは人生を励ますものだと思います。

昨年4月、アート広場のオープン

東北新幹線全線開業 これからが本当の勝負です



こばやし ようこ
十和田市現代美術館 特任館長 小林 央子 さん

十和田市出身、東京都在住。平成15年から市の現代美術館構想に携わり、平成20年2月1日、現代美術館特任館長に就任。現代美術館をはじめ十和田市の魅力を国内外に発信。また、FOX CHANNELSのインタビューアとして活躍。最近は温泉に夢中とのこと

記念式典が行われ、作品を提供してくれた前衛芸術家の草間彌生さんが出席してくれました。草間さんのカラフルな髪の色をみて、もし、自分が真似をしたらどんな気分になるのだろうと思いついて、8月に美術館で行っている盆踊りで、みんなでおレンジ色のカッラを付けて踊りました。参加者はとてもはしゃいで楽しんでくれました。美術館は、日常生活では味わえない、そして新たな自分を発見できる場所にもしたいですね。美術館と作家、入館者、市民をつないでいく企画をどんどん提案していきたいと思っています。

平成22年11月に入館者が50万人を超えました。とてもうれしいことです。しかし、これまでは美術館をPRすることでよかったのですが、今後はこの実績をどのように生かしていくのか、まちづくりのデザインが必要だと思います。十和田市には美術館がある。商店街の素朴な人情もある。十和田湖や奥入瀬溪流、温泉など心も体も元気になれる要素がたくさんあります。十和田市全体の魅力をPRしていくことで、入館者の増加につなげていかなければなりません。



美術館めぐりと自然散策、そして温泉。自称アートネチャーリズムを企画してみたいと意気込む小林さん

せん。東北新幹線が全線開業しました。県内には見どころがたくさんあります。これからが本当の勝負だと思います。気を引き締めています。

入館者を対象にしたアンケートの結果では約9割のかたが市外のかたです。美術館、アートという堅苦しいイメージがありますが、そんなことはありません。市民の美術館です。例えば農作業の合間に長靴を履いて訪れてもいいんです。今後は、市民の皆さんが気軽に足を運べるような仕掛けをしていきたいですね。平成20年4月にオープンした美術館は人間に例えると3歳。子どもを育てるように市民の皆さんと一緒に美術館を育てていければと思います。

